

人権に関する作文・標語の 入賞作品を紹介します!

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、例年開催されていた『人権フェスタ』が中止となりました。

しかし、人権に関する作文や標語については、町内小・中学校から出品をいただき、厳正な審査が行われ入賞作品が決まりましたので、ご紹介いたします。

今年、弟は左足をこっせつし
まず、一つは、弟のけがだ。
自分ができた。
自分なりの答えを見つけるこ
事があり、ぼくはこの問題の
し、かと言って、しょうがい
どちらが正解なのか。答えは
やんでいる。
しかし、今年、二つの出来
事があり、ぼくはこの問題の
自分なりの答えを見つけるこ
事ができた。

しょうがいのある人にと
ように接するか。
これは、なかなかむずかし
い。こちらが、しょうがいを
気にしすぎてしまうと、相手
にいやな思いをさせてしま
し、かと言って、しょうがい
のことをあまり考えないと、相
手をこまらせてしまうからだ。
どちらが正解なのか。答えは
あるのか。ぼくは、今でもな
やんでいる。

『どんな人も生きやすい社会へ』
最優秀賞
持留小学校 5年
中島 颯太さん

最優秀賞



作文部門

た。ぼくが、学校から帰って
くると、げんかんに、まっば
づえが置いてあった。何だろ
うと思って、母にたずねると、
弟がまずいて足をこっせつし
たことが分かった。弟は、足
に大きなギプスをつけていた。
よく日から、ぼくの役割が
いろいろと決まった。まず、お
風呂は、ぼくがいつしよに入
ることになった。弟のギプスに
ビニールをつけ、弟が転ばな
いように気をつけながら、お
風呂に入るのだ。初めのころ
は、とても大変だった。しかし、
弟はもっと大変だろうなと思
い、ぼくはがんばった。また、
弟のランドセル、水筒なども
ぼくが持つことになった。学
校に行くとき、弟はまっばづ
えを使うので物を持つことが
できない。弟のけがが治るま
で、ぼくは、弟の荷物を運んだ。
この経験から、ぼくはしよ
うがいのある人には、やはり、
はいりよが必要だなと思った。
はいりよがないと、しょうがい
のある人はこまることが多い
からだ。

京パラリンピックでは、パラ
アスリートの人たちが、しよ
うがいをかかえながらも、一
生けん命、競技に参加していた。
ぼくは、その中で水泳の鈴
木孝幸選手に心をうばわれた。
鈴木選手は、手と足にしよ
うがいがある。一見すると、水泳
なんてできそうにない。しか
し、鈴木選手は六才から水泳
を始め、今年、出場した種目
すべてでメダルを取った。ぼ
くは、このことを知って、しよ
うがいがあるからといって、周
りがいりよしすぎるのもよ
くないのだなと思った。すべ
ての人に可能性はあるのだ。
ぼくは、この二つの出来事
を通して、しょうがいのある
人へ、はいりよはしつつも、しよ
うがいのある人がいろいろと
チャレンジできる、いきいき
と生きていける社会にしてい
かなければいけないなと思っ
た。
そのために、ぼくに何がで
きるか。まずは、しょうがい
のある人に接するとき、何
をはいりよしてほしいかを聞
き、あまりはいりよしすぎな
いようにこころがけたい。そ
して、おたがいいろいろな
気にするこなく交流できた
らと思う。